

令和4年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立栗原北小学校 校長 石川 雅章

1 学校教育目標

- ・かंगाえる子
- ・がんばる子
- ・やさしい子
- ・やさしい子

2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- 多様な取り組みを通して本の楽しさにふれ、読書習慣の構築を図る。
- 多様な本との出会いを通し、豊かな心情と幅広い知識を身に付けさせる。
- 多様な資料から目的に応じた情報を選択し、課題解決をする能力を伸ばす。
- 学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整え、児童の読書に対する意欲を高める。

3 学校図書館の現状（令和3年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 9932冊 (蔵書基準冊数 9160冊) / 蔵書率 108.4% (前年度末 116%)									
	② 新規購入図書 474冊 / 廃棄図書 691冊 / 増減冊数 -691冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.5%	1.19%	8.91%	7.13%	13.87%	5.00%	2.61%	9.55%	4.38%	45.30%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	② 開館時間：8：30～14：50									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 51.1冊 (前々年度末：33冊)									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 98% (前々年度末：98%)									

(令和4年度末)

蔵書状況	① 蔵書数 9637冊 (蔵書基準冊数 8760冊) / 蔵書率 110.0% (前年度末 108.4%)									
	② 新規購入図書 671冊 / 廃棄図書 1008冊 / 増減冊数 -337冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.3%	1.3%	9.3%	6.8%	13.8%	4.7%	2.5%	8.9%	4.4%	45.9%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間：授業時 中休み 昼休み (前年度からの変更 なし)									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 57.6冊 (前年度末：51.1冊)									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 95.7% (前年度末：98%)									

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	①読みやすい読み物に興味をもち、楽しんで読書をしようとする意欲を育てる。 ②学校図書館の利用の仕方を知り、決まりを守って利用しようとする態度を育てる。	
今年度の成果目標		達成基準
①学校図書館を使う授業により、本を手取る機会が増える。		①各学級月4回以上、読書等の授業を学校図書館で行う。
②学校図書館の本を利用し、読書をする経験を重ねる。		②読書月間や長期休業を利用して、年間一人あたり40冊以上の本を読む。
③学校図書館の利用の仕方について知る。		③学校図書館オリエンテーションを全学級で実施する。
目標達成状況		
① 年間を通し、固定時間割に設定して週1回(月4回)学校図書館を利用した。		
② 平均69.6冊貸し出し(3月末まで)		
③ 担任が年度当初にオリエンテーションを行い、学校図書館の利用や貸し出し・返却について指導した。		

第2学年	①いろいろな読み物に興味を持ち、楽しんで読書しようとする意欲を育てる。 ②学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用しようとする態度を育てる。
今年度の成果目標	達成基準
①自分の興味のある本を探して、読書することができる。 ②図鑑や科学的な読み物について読書し、その内容を友達に伝えることができる。 ③学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書をするすることができる。	①各学級月4回以上、読書や探求の授業を学校図書館で行う。 ②読書月間や長期休業を利用して、年間一人あたり40冊以上の本を読む。 ③学校図書館オリエンテーションを全学級で実施する。
目標達成状況	
① 年間を通し、固定時間割に設定して週1回（月4回）学校図書館を利用した。 ② 平均62.1冊貸し出し（3月末まで） ③ 担任が年度当初にオリエンテーションを行い、学校図書館の利用や貸し出し・返却について指導した。	
第3学年	①いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする意欲を育てる。 ②決まりを守り、進んで学校図書館を利用する態度を養い、資料や情報を集めて活用できる力を育む。
今年度の成果目標	達成基準
①サッカーに興味のある児童が、他のスポーツの本にも親しむ等、分の興味のある本だけでなく、それに関連する本についても読書する意欲を育てる。 ②辞典や図鑑等から分かったことをまとめることができる。 ③学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書をするすることができる。	①学級月4回以上、読書や探求活動の授業を学校図書館で行う。 ②読書月間を利用して、年間一人あたり35冊以上の本を読む。 ③調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が65%以上。
目標達成状況	
① 年間を通し、固定時間割に設定して週1回（月4回）学校図書館を利用した。 ③ 平均58.0冊貸し出し（3月末まで） ④ 調べる学習コンクールには100%の児童が参加した。	
第4学年	①いろいろな読み物に興味を持ち、幅広く読書しようとする意欲を育てる。 ②決まりを守り、進んで学校図書館を利用する態度を養い、多様な資料や情報を収集・活用することができるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
①興味のあることに柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書をするすることができる。	①各学級月4回以上、読書や探求活動の授業を学校図書館で行う。 ②読書月間や長期休業を利用して、年間一人あたり35冊以上の本を読む。 ③調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が70%以上。
目標達成状況	
② 年間を通し、固定時間割に設定して週1回（月4回）学校図書館を利用した。 ② 平均65.7冊貸し出し（3月末まで） ③ 調べる学習コンクールには1名の児童が参加した。	

第5学年	①適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする意欲を育てる。 ②決まりを守り、進んで学校図書館を利用する態度を養い、計画的に資料や情報を収集し、適切に活用することができるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
①興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞等から分かったことをまとめることができる。 ③学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考えることができる。	①各学級月2回以上、読書や探求活動の授業を学校図書館で行う。 ②読書月間や長期休業を利用して、年間一人あたり30冊以上の本を読む。 ③調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が75%以上。
目標達成状況	
② 年間を通し、固定時間割に設定して週1回（月4回）学校図書館を利用した。 ④ 平均42.2冊貸し出し（3月末まで） ⑤ 調べる学習コンクールには3名の児童が参加した。	
第6学年	①適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする意欲を育てる。 ②決まりを守り、進んで学校図書館を利用する態度を養い、計画的に資料や情報を収集し、適切に活用することができるようにする。
今年度の成果目標	達成基準
①興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考え、友達に伝えることができる。	①各学級月に2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う ②読書月間や長期休業を利用して、年間一人あたり30冊以上の本を読む。 ③調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が75%以上。
目標達成状況	
② 年間を通し、固定時間割に設定して週1回（月4回）学校図書館を利用した。 ③ 平均53.0冊貸し出し（3月末まで） ④ 調べる学習コンクールには90%の児童が参加した。	

5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果

取組計画・方針	成果・効果
【蔵書・配架等に関すること】 ①既存の寄贈本や新規購入図書の受け入れ、登録作業を10月中に完了させる。 ②学校図書館の環境整備を図書支援員や図書ボランティアと協力して4月中に整える。 ③廃棄図書を早期に確定させ、蔵書構成を念頭においた新規図書購入計画を作成する。	・購入図書や寄贈図書は登録作業を早急に行い、児童が早く利用できるようにした。 ・学年更新や貸し出し名簿の作成作業を4月中に完成させることができた。 ・廃棄図書は12月までに確定し、蔵書構成基準に近づけるように選書を行った。
【学校図書館支援員との連携・協働】 ①学校図書館オリエンテーションの実施やブックトーク等、支援員の積極的な連携・協働に取り組む。4月に教職員についても図書室の使い方などのオリエンテーションを行う。 ②調べ学習をはじめ、授業に必要な教材や資料について積極的に支援員への相談や情報交換を行う。 ③学校図書館支援員やボランティアとの連携を深め、明るく楽しい学校図書館づくりを実践する。 ④学校図書館支援員の勤務日は、学校図書館を開館し、中休み、昼休みなど可能な限り児童が利活用できる時間を作る。 ⑤学校図書館を使う読書活動を低学年は週1回、中学年以上は2週間に1回行い、また、調べ学習も各学年の年間指導計画に沿って行う。	・コロナ対応で制限もあったが、図書館の利用時に支援員が図書館の使い方や読書相談を積極的に行った。 ・資料収集や調べ学習に向け、授業の教材や資料についての相談や情報交換を担当や児童と行った。 ・栗北まつりにおいて、図書ボランティアによる読み聞かせを実施することができた。 ・学校図書館を使う読書活動を低学年は週1回、中学年以上は2週間に1回行い、また、調べ学習も各学年の年間指導計画に沿って行うことができた。
【その他】 ①各学年の廊下などに新刊本を並べ、いつでも新しい本が読める環境づくりをする。 ②基本の貸し出し冊数は2冊とし、長期休業中は3冊の貸し出しを可能とする。	・中休みや昼休みの児童の利用も増え、様々な分野の本が読まれるようになった。

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

朝学習を読書タイムとして読書習慣の定着を図った。日常的な読書の習慣化を目指して学校全体で「読書マラソン」に取り組んだ。

図書館司書教諭と学校図書館支援員と連携する時間を確保し、読書環境の整備、活動の充実が図ることができた。

令和5年度は、図書ボランティアを地域や保護者に呼びかけ、読み聞かせを再開させる。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

読書マラソンの目標達成者が35%は少し低調に感じる。読書量の違いから文章の理解力や自分の考えを相手に伝える力の差につながるのならば、取り組みの見直しが必要（学校関係者評価より）